

マンモス

ケナガマンモス (学名: *Mammuthus primigenius*) は、最終氷期の中でも特に寒い時代だった約 3 万年前に、ユーラシア大陸から北海道に渡ってきました。海面が下がり、氷河が前進すると、樺太島、北海道北部、およびユーラシア大陸をつなぐ橋ができました。この期間に、いくつかの動物種が、ユーラシア大陸から北海道に渡ってきました。その中には、キタサンショウウオのように、現在も釧路地方に生息しているものがあります。

ケナガマンモスは、アフリカ象と同じくらいの大きさでした。ケナガマンモスは、寒さにうまく適応していました。その身体は、長くて粗い毛の層で覆われており、その下には、より短くて柔らかい毛の層がありました。マンモスの歯の化石は、釧路の南にある襟裳岬など、釧路周辺の複数の地点で発見されました。この骨格はレプリカであり、シベリアで発見されたマンモスの骨の化石をモデルにしています。体長 3.5m、体高 2.9m で、牙の長さは 2.5m あります。